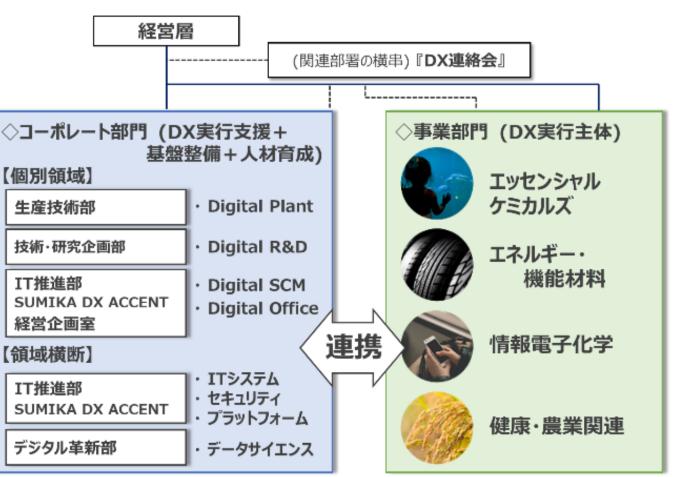


1.DX戦略および推進体制

全体戦略

DX戦略1.0 コーポレート ・デジタル4領域の生産性向上 主導 プロセス効率化による余力創出・オペレーションコスト削減 ●機能・業務の高度化/効率化、ベストプラクティスの横展開 DX戦略2.0 ・既存事業の競争力確保 事業部門主導 顧客接点強化・顧客満足度向上による 付加価値創出、シェア・売上拡大 機能を跨ぐサプライチェーン全体の最適化 DX戦略3.0 持続的な 新たなビジネスモデルの実現 取り組みとして ● コア技術・サービス・データを活かした新規ビジネスモデル創出 定着化 ■DX先進企業としての企業価値向上

DX推進体制



2.スマート保安推進体制

スマートファクトリー分科会(全社横断取り組み) 事務局 E工場 工場DX 生產技術部門 - スマートファクトリー推進担当 推進組織 システム部門

- スマートファクトリー推進担当

- スマートファクトリー推進担当

- 技術情報調査
- 予算策定
- 全社進捗管理
- 全社水平展開推進

【技術ワーキンググループ】

- データ活用
- 運転管理

【全社教育カリキュラム】 データエンジニア研修

BIセミナー

- 生産部門DX戦略立案

工場DX推進組織(各工場取り組み)

工場戦略立案

O工場

C工場

- デジタル技術PoC
- デジタル技術展開
- ニーズ開拓

デジタル化専門部隊 (技術内製化)

工場DX

推進組織

工場DX

推進組織

- 自動化技術
- デジタルツイン技術
- ロボット技術
- 画像解析技術
- AI·機械学習技術

認定取得予定

2024年度

プラント プラント プラント プラント プラント



- 技術開発
- 技術サポート
- 技術評価

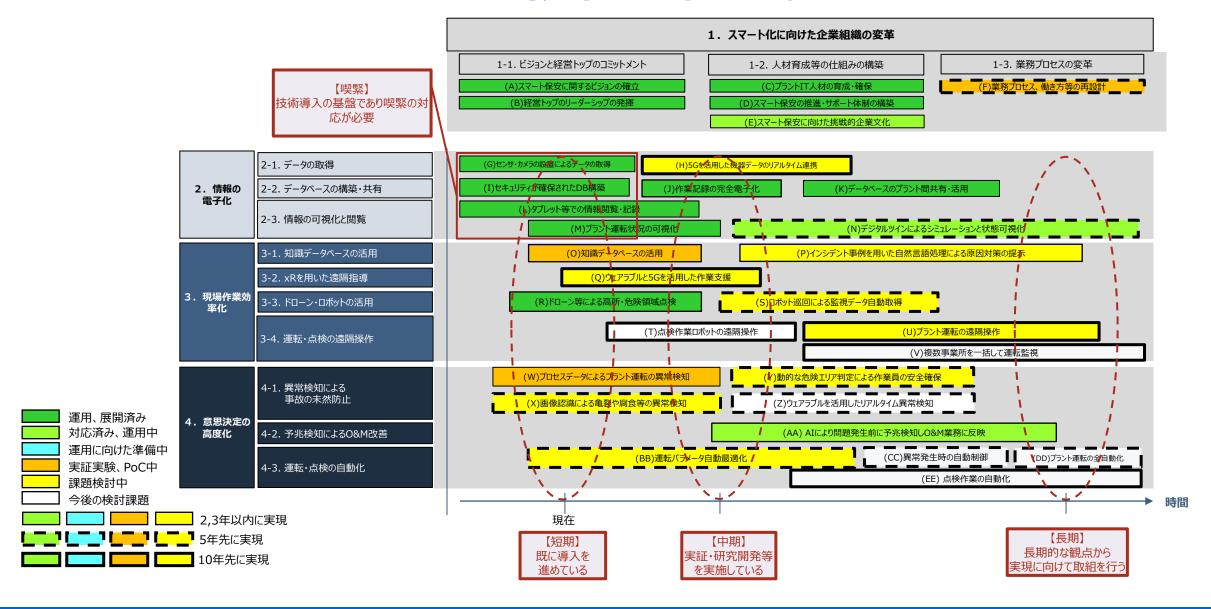


3.スマート保安 ロードマップ

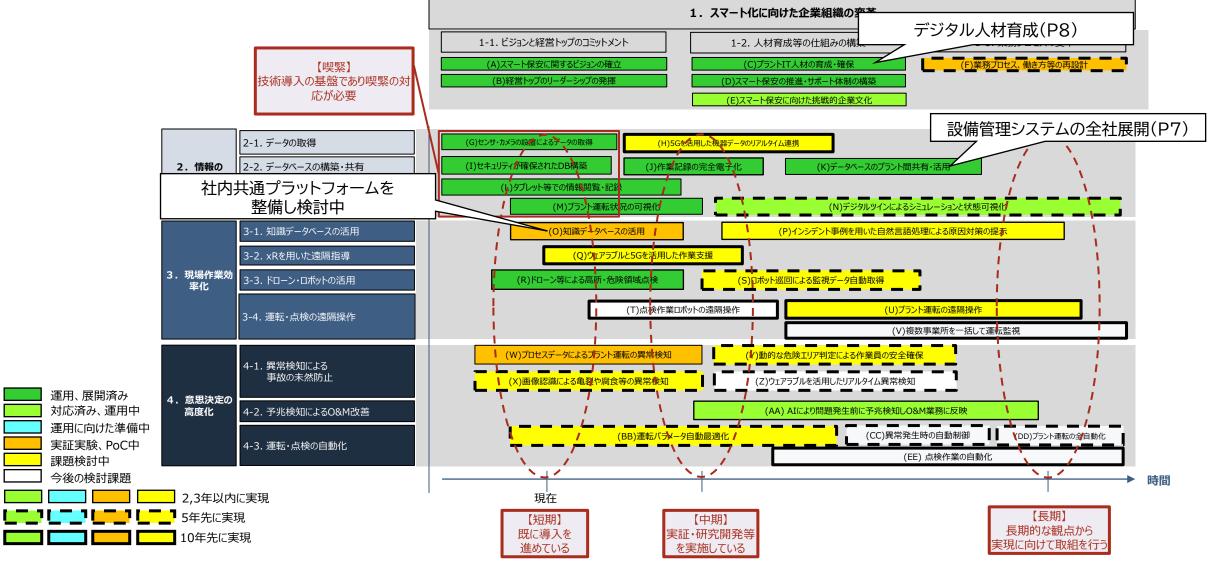
2022 - 20242025 - 2027競争力の確保 スマート保安導入 業務変革期 計画 ·運転安定化 ·基盤構築 ・管理基盤の整備 ・データ収集と蓄積 ・保安信頼性の向上 ·個別技術検証 ·人材育成 ・高度解析技術の導入 ·投資対効果発現 設備管理システム 管理基盤 操業電子日報 生成AI ドローン ウエアラブル端末 現場保安力の向上 データ基盤による 画像解析技術 Digital 維 高度解析と標準化 技術 無線計器 持 シミュレーション(デジタルツイン) 改 善 ソフトセンサー・異常予兆検知 データ 人材 機械学習活用(データエンジニア) 解析技術 育成 プラントデータ活用技術者



4.アクションプランの進捗状況(1/2)



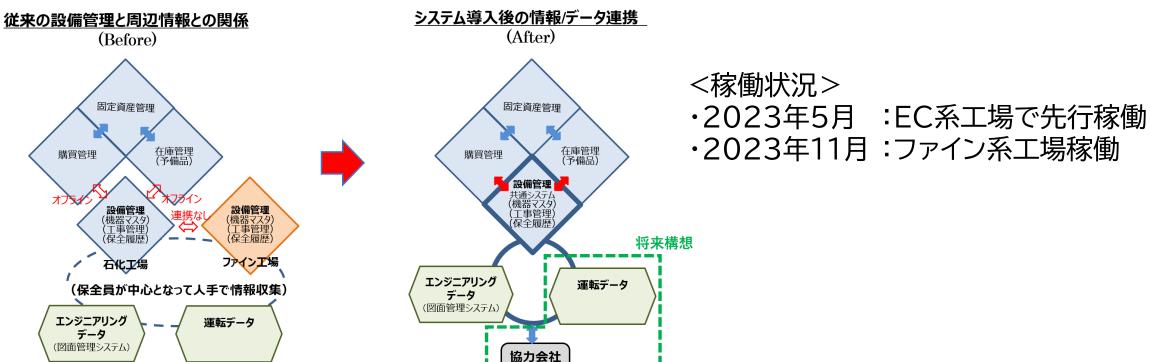
4.アクションプランの進捗状況(2/2)





5.事例紹介 【設備管理システム】

項目	内容
課題	連携したシステムを駆使した業務への転換、データ活用によるメリット創出
効果	・保全業務効率化:情報の標準化、設備コストの把握、図面図書の最新版管理 ・信頼性保全へのシフト:重大設備トラブルのゼロ化、保全方式・周期の最適化



5.事例紹介【人材育成】

製造技術者の役割

適切な状況判断と迅速な意思決定

- ・ 安全で安定な運転状態を維持
- ・トラブルの早期発見、解決 etc.

製造現場におけるデータ解析 技術の活用範囲

- ・最適な運転条件の探索
- ・トラブル時の原因究明
- · ソフトセンサー·予兆検知 etc.

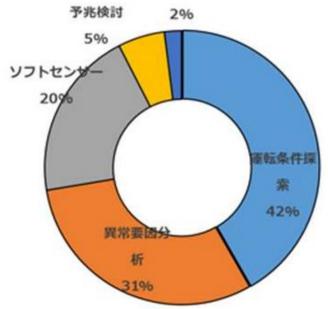
育成のポイント

- ・ データドリブンな課題解決能力を向上
- 製造業務に関わる技術にフォーカスし、 短期間で人材を育成
- ・製造のドメインナレッジを有するエンジニアがデジタル技術を自在に活用



ドメインナレッジ





その他



6.スマート保安推進に向けて

課題	内容	区分
デジタルデバイス およびセンサー等 フィールド展開の制約	・危険区域においてスマートフォンやタブレット等、非防爆DX機器使用の制約がある ・行政のルールが異なり、非常に厳しい対応を求められる地域もある ※海外品等が活用でき、防爆機器のコストが安価であれば問題は緩和される場合がある	技術法規制・業界ルール
現場でのデジタル推進 人材の育成	・操業現場でのデジタル化を円滑に進めるにあたり、実務にあたるスタッフ、運転者に対するデジタル技術の運用、システム開発に関する実践的な教育が必要になる。データ活用などの一部の技術分野においては教育を進めているが、さらに多くの技術に対する教育が必要とされる。	人材
フィールド業務の 効率化・自動化	・フィールドでは多くの作業が労働集約型の業務である。自動化設備の増強や、ロボット等での置き換えを考えるが、機能面、コスト面からハードルは高い ★「高度化にむけた投資推進のための仕掛け」の議論も必要	フィールド業務

今後、特に注力していきたいアクションプラン

·(O)知識データベースの活用

社内の技術ナレッジをDB化して検索性の向上及び生成AI等でのアシストを加速することで、業務プロセスの見直し、 保安向上を目指す。 ★データベースの構築(工事安全・保安技術)で業界横断的にできないか。

・(K)データベースのプラント間共有・活用

社内の設備管理情報を全社標準化、保全業務効率化と信頼性保全へのシフトを目指す 2023年度全社稼働開始。 データ蓄積、システム連携によりメリットを最大限に創出する

